

2018年度 運営改善計画

センター名	あさぎり・おおくら総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	朝霧、大蔵

区分	内容
改善すべき内容	<p>1. 「介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類しているが、経年的に件数を把握していない。」に該当</p> <p>2. 「住民を中心とした話し合いの場や、集いの場について網羅的に把握ができていないことに加えて、場を通して、地域課題が把握できる仕組みが機能していない。」に該当</p>
達成目標	<p>1. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握し、介護支援専門員のケアマネジメント支援を行う。</p> <p>2. 住民を中心とした話し合いの場や、集いの場について網羅的に把握ができていないことに加えて、場を通して、地域課題を把握できる仕組みが機能している状態を目指す。</p>
取組概要	<p>1. 介護支援専門員からの相談内容を引き続き、整理・分類することによりデータを蓄積していき、経年的に件数の把握に取り組んでいく。</p> <p>2. 地域課題の把握・共有することができる環境作りを目的として、民生児童委員を中心とした地域で活動されている方々と介護支援専門員がまずは顔の見える関係づくりに向けお互いの役割の理解等を図るため、定期的に交流会を開催する。</p>
具体的な取組計画（上半期）	<p>1. 引き続き、介護支援専門員からの相談を個人ごとにファイリングし、件数を把握する。</p> <p>2. 交流会等の場を通じた地域課題の把握に向け、まずは、民生児童委員ら地域で活動されている方々のエリア内の既存の社会資源の把握を後方支援する。</p>
具体的な取組計画（下半期）	<p>1. 介護支援専門員から受けた相談事例をファイリング・整理・分類を継続し、多くの介護支援専門員に共通する課題を把握する。また、相談事例の背景などについて分析し、環境的要因について抽出する。</p> <p>2. 住民を中心とした話し合いの場や、集いの場として交流会を開催し、地域課題を把握・共有する。また、継続して開催できるよう、交流会開催の意味を参加者全員で共通理解し、定期的に開催できるよう合意を得る。</p>

※前年度に評価した評価指標で「1～2」となった項目について作成すること。

2018年度 運営改善計画

センター名	きんじょう・きぬがわ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	錦城、衣川

区分	内容
改善すべき内容	<p>1. 「関係機関に対して、高齢者虐待の早期発見・早期対応のための啓発に取り組んでいるが、住民に対しては十分な啓発ができていない。」に該当</p> <p>2. 「介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類しているが、経年的に件数を把握していない。」に該当</p> <p>3. 「複数の個別事例から地域課題を明らかにしているが、地域課題を解決するための政策を検討していない。」に該当</p>
達成目標	<p>1. 関係機関や住民に対して、高齢者虐待の早期発見・早期対応のための啓発に取り組む。</p> <p>2. . 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握し、介護支援専門員のケアマネジメント支援を行う。</p> <p>3. 複数の個別事例から地域課題を明らかにし、地域課題を解決するための政策を検討し、市との共有や報告を行う。</p>
取組概要	<p>1. 居宅介護支援事業所等だけでなく住民に対しても、高齢者虐待防止に向けた啓発活動を行う。</p> <p>2. 介護支援専門員からの相談内容を引き続き、整理・分類することによりデータを蓄積していき、経年的に件数の把握に取り組んでいく。</p> <p>3. 複数の個別事例から把握した地域課題を、解決するためにセンター内で検討し、市との共有や報告を行う。</p>
具体的な取組計画（上半期）	<p>1. まちなかゾーン会議で、高齢者虐待の内容を含むセンターの相談内容・件数を報告し、併せて虐待防止のために早期発見や通報が必要であることを説明する。また、居宅介護支援事業所等との交流会において、早期発見・早期対応の重要性について説明する。</p> <p>2. 引き続き、介護支援専門員からの相談を個人ごとにファイリングし、件数を把握する。</p> <p>3. 個別事例を一覧にまとめ、整理・分類し地域課題についてセンター内で検討する。</p>
具体的な取組計画（下半期）	<p>1. まちなかゾーン会議で、高齢者虐待の内容を含むセンターの相談内容・件数を報告し、併せて虐待防止のために早期発見や通報が必要であることを説明する。また、居宅介護支援事業所等との交流会において、早期発見・早期対応の重要性について説明する。</p> <p>2. 介護支援専門員から受けた相談事例をファイリング・整理・分類を継続し、多くの介護支援専門員に共通する課題を把握する。また、相談事例の背景などについて分析し、環境的要因について抽出する。</p> <p>3. 個別事例を一覧にまとめ、整理・分類し地域課題についてセンター内で検討する。地域課題について、どのルートで市と共有や報告ができるかをセンター内で検討し、市に報告する。</p>

※前年度に評価した評価指標で「1～2」となった項目について作成すること。

2018年度 運営改善計画

センター名	にしあかし総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	望海、野々池

区分	内容
改善すべき内容	1. 「介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類しているが、経年的に件数を把握していない。」に該当
達成目標	1. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握し、介護支援専門員のケアマネジメント支援を行う。
取組概要	1. 介護支援専門員からの相談内容を引き続き、整理・分類することによりデータを蓄積していき、経年的に件数の把握に取り組んでいく。
具体的な取組計画（上半期）	1. 引き続き、介護支援専門員からの相談を個人ごとにファイリングし、件数を把握する。
具体的な取組計画（下半期）	1. 介護支援専門員から受けた相談事例をファイリング・整理・分類を継続し、多くの介護支援専門員に共通する課題を把握する。また、相談事例の背景などについて分析し、環境的要因について抽出する。

※前年度に評価した評価指標で「1～2」となった項目について作成すること。

2018年度 運営改善計画

センター名	おおくぼ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	大久保、江井島、大久保北、高丘

区分	内容
改善すべき内容	<p>1. 「介護支援専門員を対象とした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に指定居宅介護支援事業所に示していない。」に該当</p> <p>2. 「介護支援専門員から受けた相談内容を整理・分類しているが、経年的に件数を把握していない」に該当</p>
達成目標	<p>1. 年度当初に介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会の開催計画を策定し、年度当初に担当圏域の居宅介護支援事業所に示す。</p> <p>2. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握し、介護支援専門員のケアマネジメント支援を行う。</p>
取組概要	<p>1. 年2回の研修会を計画し、地域総合支援センター本部主催の研修等を含めて計画を作成し、居宅介護支援事業所に提示する。</p> <p>2. 介護支援専門員からの相談内容を引き続き、整理・分類することによりデータを蓄積していき、経年的に件数の把握に取り組んでいく。</p>
具体的な取組計画（上半期）	<p>1. 4月、年内に行う研修の内容、日程について調整を実施する。市域全体で行う研修等も盛り込んだ計画を作成する。 5～6月、圏域内居宅介護支援事業所を訪問し研修日程を記載した計画を配布する。</p> <p>2. 引き続き、介護支援専門員からの相談を個人ごとにファイリングし、件数を把握する。</p>
具体的な取組計画（下半期）	<p>1. 10月、第1回研修会を開催する。 2月、第2回研修会を開催する。</p> <p>2. 介護支援専門員から受けた相談事例をファイリング・整理・分類を継続し、多くの介護支援専門員に共通する課題を把握する。また、相談事例の背景などについて分析し、環境的要因について抽出する。</p>

※前年度に評価した評価指標で「1～2」となった項目について作成すること。

2018年度 運営改善計画

センター名	うおずみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	魚住東、魚住

区分	内容
改善すべき内容	<p>1. 「消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、概ね対応できているが、すべてのケースには対応できていない。」に該当</p> <p>2. 「介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催していない。」に該当</p> <p>3. 「介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類しているが、経年的に件数を把握していない」に該当</p> <p>4. 「住民を中心とした話し合いの場や、集いの場について一部は把握できているが、網羅的には把握できていない。」に該当</p>
達成目標	<p>1. 消費者被害に関する啓発を行うとともに、消費生活に関する窓口や警察と連携し対応していく。</p> <p>2. 介護支援専門員が主体となって、サロン等に働きかけ、地域住民に対して、介護予防等に関する講座を行っていく。</p> <p>3. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握し、介護支援専門員のケアマネジメント支援を行う。</p> <p>4. 小地域における集いの場を網羅的に把握していく。</p>
取組概要	<p>1. サロンや介護支援専門員を通じて、消費者被害に遭われた方がいれば早急に報告してもらうよう啓発し、早期発見と消費生活に関する窓口・警察と連携した対応を行う。</p> <p>2. まちなかゾーン会議主催の介護予防教室に、介護予防のミニ講座を開催する。また、サロン、自主グループ活動開催時にもミニ講座を開催する。</p> <p>3. 介護支援専門員からの相談内容を引き続き、整理・分類することによりデータを蓄積していき、経年的に件数の把握に取り組んでいく。</p> <p>4. 地域アセスメントシートを活用し自治会単位の把握を行い地域課題の把握につなげるようにする。</p>
具体的な取組計画（上半期）	<p>1. まちなかゾーン会議や「ケアマネさんいらっしやい」（ケアマネジャーの交流会）を通じて消費者被害に関する啓発を行い、消費生活に関する窓口・警察と連携した対応を行う。</p> <p>2. まちなかゾーン会議主催の介護予防教室で2回程度ミニ講座を開催する。</p> <p>3. 引き続き、介護支援専門員からの相談を各個人ごとにファイリングし、件数を把握する。</p> <p>4. 特に関わりのなかった自治会から地域のキーパーソンを見つけ、地域アセスメントシートの作成を行う。</p>
具体的な取組計画（下半期）	<p>1. まちなかゾーン会議や「ケアマネさんいらっしやい」を通じて消費者被害に関する啓発を行い、早期発見と消費生活に関する窓口・警察と連携した対応を行う。</p> <p>2. まちなかゾーン会議主催の介護予防教室で2回程度ミニ講座を開催する。</p> <p>3. 介護支援専門員から受けた相談事例をファイリング・整理・分類を継続し、多くの介護支援専門員に共通する課題を把握する。また、相談事例の背景などについて分析し、環境的要因について抽出する。</p> <p>4. 引き続き、自治会の地域のキーパーソンを見つけ地域アセスメントシートの作成を行い、できるところからセンターの広報啓発を行うとともに、地域課題が把握できるしくみを作る。</p>

※前年度に評価した評価指標で「1～2」となった項目について作成すること。

2018年度 運営改善計画

センター名	ふたみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	二見

区分	内容
改善すべき内容	<p>1. 「介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会等の開催計画を策定しているが、年度当初に、指定居宅介護支援事業所に示していない。」に該当</p> <p>2. 「介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類しているが、経年的に件数を把握していない。」に該当</p>
達成目標	<p>1. 介護支援専門員を対象とした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に指定居宅介護支援事業所に示す。</p> <p>2. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握し、介護支援専門員のケアマネジメント支援を行う。</p>
取組概要	<p>1. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務会議で評価目標に対する取組を精査し、年度計画を立案し示す。</p> <p>2. 介護支援専門員からの相談内容を引き続き、整理・分類することによりデータを蓄積していき、経年的に件数の把握に取り組んでいく。</p>
具体的な取組計画（上半期）	<p>1. まもろう会(二見校区内の介護サービス事業所連絡会)の中の部会を通じて研修会等の開催について周知していく。</p> <p>2. 引き続き、介護支援専門員からの相談を個人ごとにファイリングし、件数を把握する。</p>
具体的な取組計画（下半期）	<p>1. 研修会等を実施した結果を集約し次年度の研修計画を検討していく。</p> <p>2. 介護支援専門員から受けた相談事例をファイリング・整理・分類を継続し、多くの介護支援専門員に共通する課題を把握する。また、相談事例の背景などについて分析し、環境的要因について抽出する。</p>

※前年度に評価した評価指標で「1～2」となった項目について作成すること。

